

折に触れ 四字熟語

NO. 118 〔五風十雨〕 ごふう じゅうう

< 意味 > 世の中が平穩無事であるたとえ。気候が穏やかで順調なことで、豊作の兆しとされる。五日ごとに風が吹き、十日ごとに雨が降る意から。
出典の「五日にして一たび風ふき、十日にして一たび雨ふる」の略。

< 出典 > 「論衡」<是応>
「・・・」

道無虜掠、風不鳴條、雨不破塊、五日一風、十日一雨。

「・・・」

読み下し： 道に虜掠無く、風條を鳴らさず、雨塊を破らず、五日に一たび風き、十日に一たび雨を言う。

通 釈： 『(儒者が泰平のめでたいしるしの現れを論じている一節で) 道中には物を掠めたり虜にするものがなく、風は枝に音をたてて吹かず、雨は土塊を砕かず、五日に一ど風が吹き、十日に一ど雨が降るといふ。』

用 例： 「これさえ手に入れば国家泰平福德万年五風十雨の世は極楽となるかのように思っていた。
<徳富蘆花・思出の記>

一 言： 漢数字シリーズ その2

出典の「論衡」は、NO. 50でも取り上げましたが、中国漢代に流行した自然観、社会観、人間論、知識論の科学的実証的批判書で西暦90年ごろ成ったとあります。

東京ではこのところ、十雨どころか毎日のように雨が降りなかなか梅雨が明けそうにもありません。

参照文献： 明治書院・新釈漢文大系「論衡」中 岩波書店「四字熟語辞典」